

第4回福知山市避難のあり方推進シンポジウム 「誰一人取り残さない防災の実現をめざして」 実 施 報 告 書

【概要】

- 実施日時：令和7年1月26日（日）13:30～16:10
- 開催手法：会場、YouTube及び京都FM丹波放送によるライブ配信
- 参加者数：会場120人、YouTube接続数610回、
ラジオ聴取2人（※事前申し込み）

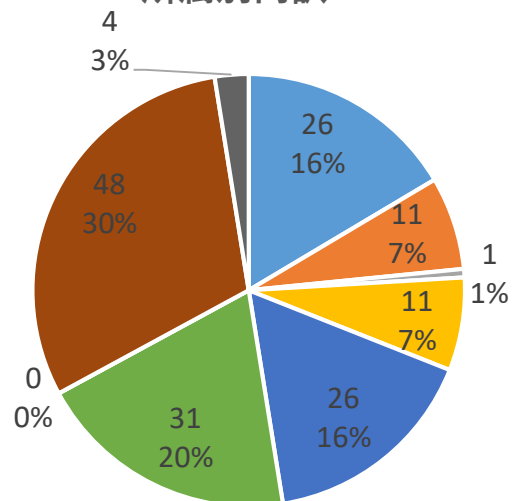
【開催目的】

福知山市避難のあり方検討会の最終とりまとめに基づき、高齢者だけではなく、障害をお持ちの人等、様々な人が抱えている災害時の悩みや課題に触れ、そこから見える今後の取組みや解決策等について考える「要支援者の避難」をテーマに市民の皆さん等に広く情報発信を行い、「誰一人取り残さない防災の実現」をめざして開催する。

【参加者内訳（申込者内訳）】

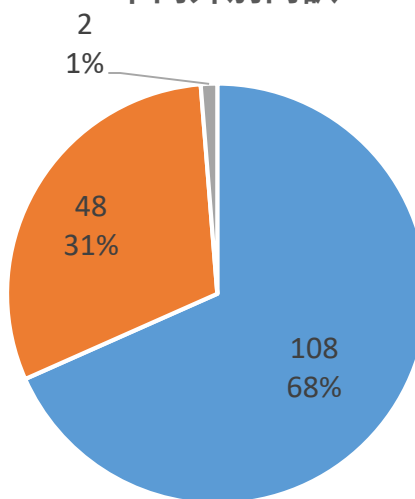
(単位：人)

所属別内訳



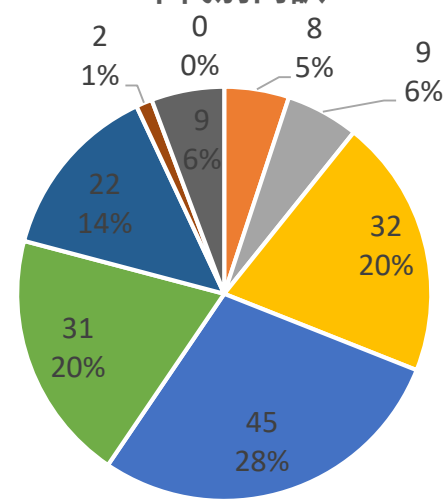
- 自治会（自主防災組織） 26
 - 民生児童委員 11
 - 消防団 1
 - 福祉事業所 11
 - 防災関係機関 26
 - 一般 31
 - 学生 0
 - その他 48
 - 不明 4
- 計158

市内外別内訳



- 市内 108
 - 市外 48
 - 不明 2
- 計158

年代別内訳



- 10代 0
 - 20代 8
 - 30代 9
 - 40代 32
 - 50代 45
 - 60代 31
 - 70代 22
 - 80代以上 2
 - 不明 9
- 計158

【実施内容（プログラム）】

1/26(日)

第4回福知山市避難のあり方推進シンポジウム

13:30～

開会 挨拶

□ 福知山市 市長 大橋 一夫

第1部 報告

13:35～

避難のあり方の方向性

□ 福知山市 危機管理監 松本 美規夫

第2部 基調講演

13:50～

当事者といっしょに考える災害への備え

□ 東北福祉大学総合マネジメント学部 教授 石塚 裕子

※14:20～ 休憩

第3部 パネルディスカッション

14:30～

誰一人取り残さない防災の実現をめざして～要支援者の避難～

【コーディネーター】

□ 京都大学防災研究所 教授 矢守 克也

【パネリスト】

□ 香川大学創造工学部 准教授 竹之内 健介

□ 東北福祉大学総合マネジメント学部 教授 石塚 裕子

□ 福知山市身体障害者団体連合会 会長 樋口 智子

□ 福知山市 副市長 前川 二郎

15:55～

閉会 挨拶

□ 京都府 危機管理監 南本 尚司

第1部 報告



第2部 基調講演



第3部 パネルディスカッション



【第1部 報告】 福知山市における避難のあり方の方向性

福知山市 危機管理監 松本 美規夫

【報告概要】

福知山市避難のあり方検討会最終とりまとめの内容に対する取組報告

- 防災アプリ「福知山市防災」を用いた避難情報の発信を紹介。12月末現在でアプリダウンロード数は約19,000となっており、福知山市民の約4人に1人以上がダウンロードしている。
- 個別避難計画作成を進めており、実効性を高めるため、計画に基づき避難訓練を行った。
- 車中泊避難体験イベントや避難所運営の地域委託など、避難行動につながる取組を実施した。
- 京都府総合防災訓練に併せて福知山市地域防災訓練を実施し、医療・保健・福祉など、多様な職種の団体と連携した避難所運営訓練を行った。
- 自主防災リーダー養成講座や小中学校への出前講座など、あらゆる年代の人に防災教育を行った。

【報告資料（抜粋）】

テーマ3 高齢者等の災害時要配慮者など、住民をどのように誘導するのか！

要支援者避難訓練



テーマ4 避難先はどうするのか！

2年ぶりに帰ってきた！
親子で体験しませんか？
車中泊避難イベント

2024年
9/14(土) 15:00 - 18:00
場所 二宮 避難所
(福知山市二宮町南端3024-1)
問い合わせ 危機管理課
0773-24-7533
所要 8月15日(日) 二宮 避難所
所要 8月15日(日) 二宮 避難所

参加費無料！
参加費15組限定！
お申し込みの申込書をお渡し
お申し込みの申込書をお渡し
お申し込みの申込書をお渡し

第1回は小中学生を含む家族20組、第2回は小学生を含む家族14組に参加いただいた。
「今後も車中泊避難をしたい」と思われる家族が第1回は85%、第2回は64%と関心が高かった。(アンケート結果より)
第1回は寒い時期、第2回は暑い時期に開催することで、季節に合わせた対策を検討いただいた。
第1回は車中泊避難の注意点や参加者の皆様からの感想などまとめた動画を作成し、福知山市公式YouTubeで公開している。
(第2回動画は今年夏ごろ公開予定)

コロナ禍で注目の
車中泊避難の心算

第1回動画はこちら →

【第2部 基調講演】当事者といっしょに考える災害への備え

東北福祉大学総合マネジメント学部 教授 石塚 裕子

【講演概要】

- 地域コミュニティが前提としてきた住民とは、多様な活動ができる強い市民。社会的障壁を感じ地域生活に困難のある弱い市民の参加はこれまであまり意識されてこなかった。
- 災害時要支援者の中には、逃げ遅れたのではなく、安心して避難する場所がなかったから、避難しなかったといった人も存在する。
- 避難訓練の内容を工夫し、避難＝我慢ではなく、避難＝楽しいといったイメージを持っていただくことが大切。
- 避難所のあり方を検討する際には「困りごと」からアプローチすることで課題の取りこぼしが少なくなり、共有化がしやすくなる。
- 多様な人が対話に参加し、防災・減災を検討することが、誰もが助かる社会をつくる近道となる。

【報告資料（抜粋）】

考察・提案

災害時要配慮者にとって、避難所は
第2の被災地と言われてきました。
避難所は我慢大会の場所ではない。
美味しい食事、ゆっくり休めるスペース、温
かいお風呂、そして気心した人がある。
そんな**楽しい避難**を前提にしてみたいのでは
ないでしょうか！

(5)考察・提案

多様な人が一緒に避難生活を送れる環境を整えること

困りごと（AFN）	避難所での主な配慮事項・箇所
ゆとり（広さ）がないと困る	就寝スペース、通路
段差があると困る	トイレ、シャワールーム 等
複雑な空間は困る	エレベーター、スロープの整備
使いやすさ、安全面への配慮がないと困る	シンプルなレイアウト
電気がないと困る	トイレ、本部の位置の工夫など
聴覚情報だけでは困る	電源の優先利用
複雑な情報は困る	情報の提供
刺激が多いと困る	文字、絵文字、図情報の提供
プライバシー、多様性への十分な理解がないと困る	シンプルな情報提供
	やさしい日本語による情報提供
	小部屋の確保
	照明や音響への配慮
	トイレ、更衣室、授乳室などの工夫



誰もが〈助かる〉社会をめざして

一人ひとりがもつ力を活かして、平時から楽しく、多様な人が一緒に取り組むことが大切。

防災・減災を検討する場を創意工夫し（参加の場のリ・デザイン）、**小さな声の人**（これまで参加できていなかった人）の**セーフティな参加**を実現すること。

多様な人の建設的な対話の場は、誰もが〈助かる〉社会をつくる**近道**である。
そのプロセスを、（強い）市民も行政も専門家も**楽しむ**ことが大事。

なにかのヒントになれば幸いです。

【第3部 パネルディスカッション】

誰一人取り残さない防災の実現をめざして ～要支援者の避難～

【進行概要】

- コーディネーター：矢守教授
- パネリスト：竹之内准教授、石塚教授、樋口会長、前川副市長
- 矢守教授の進行により、福知山市、福知山市身体障害者団体連合会がそれぞれの立場・観点から報告を行った後、フリートーク形式で意見交換を実施。

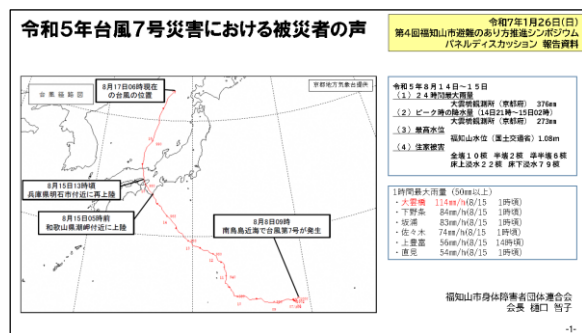
【取組発表 福知山市 前川副市長】

- 本市において、公助による避難が必要とされる人は約300人。
- この約300人について、令和7年度中に個別避難計画の作成を完了することをめざしている。
- 本市ではケアマネジャーなどの福祉専門職と共同で個別避難計画の作成に取り組んでいる。
- 個別避難計画を運用するにあたり、避難所までの移送や避難所での見守りをする人員の確保が課題となっている。
- 個別避難計画に基づいた避難訓練に参加し、避難所への避難を体験いただくことで、計画の運用についてイメージしやすくなり実災害時の避難に繋がるため、今後も訓練への参加を働きかけていく。



【被災者の声（大江町在住会員の体験談） 福知山市身体障害者団体連合会 樋口会長】

- 雨が強く降っていることを認識していたが、夜も遅かったため、避難することなく就寝した。
夜中に避難してはどうかと自治会役員から連絡をいただいた時には、自宅前の道が川のようになっていたため、避難所等への避難を断念。自宅に留まったが、翌日隣家が土砂災害に遭い全壊しているのを目の当たりにし、少しずれていればわが家が被災していたと思い、非常に怖くなった。
- 安全なうちに、自分が安心して過ごせる場所へ行くことが避難ということを、会員へ周知したいと考えている。



【意見交換で出された意見、発言（抜粋）】

(竹之内准教授)

- 避難したくなる場所というのは、環境が整っているや、便利な場所だけでなく、普段からお世話になっている人がいるとか、居心地がいい場所といったところであり、行こうかなと思ってもらえるような避難所の環境作りが必要。
- コロナ禍以降、地域コミュニティが希薄になっており、お互いを知る機会が非常に少ない。防災は社会の「かすがい」と言われており、ちょっとした取組の中に防災を絡めることで、防災に詳しい人だけではなく、あまり防災に馴染みがなかった人にも参加いただけるような環境作りが大切。
- 地域にある事業所との協力についても考えていく「業助」の必要があると考える。地域の事業所などに移送サポーターを担ってもらうなど、事業所にある若い力を取り込み、その地域の防災と一緒に考えていくのも「かすがい」効果と考える。



【第3部 パネルディスカッション】誰一人取り残さない防災の実現をめざして ～要支援者の避難～

(石塚教授)

- 個別避難計画を作成した当事者や、計画に基づく訓練に参加した人から、これから計画を作成する人や、訓練に参加したことがない人へ、直接様子を伝えてもらおうと伝わりやすい。
- 当事者自身が学ぶことは大切。お祭りに全員参加できているかの確認や、清掃活動後に非常食を食べてみる等、日々の生活の中で防災を意識する事により、身構えることなく楽しく訓練ができる。
- 強い立場の人は、弱い立場の人が安心して訓練に参加できるような雰囲気づくりを考えてほしい。
- インクルーシブな避難所運営を行うには、やはりバリアフリーであるなどハード面の対策も必要で、建物改修工事に合わせて実施するなど、対策を検討してもらいたいと考える。
- ソフトもハードも多様な市民の力を引き出して、取り組みを進めていただきたい。



(樋口会長)

- 秋に行われた避難訓練に参加した際、それぞれがパーティションで囲われておりプライバシーは守られていたが、視覚障害を持った人はどこへ行ったらいいかわからない。聴覚障害を持った人は情報すら入らない状況だった。こういった課題について、市へ解決策を丸投げするのではなく、当事者も何に困っているのか知ってもらう努力が必要。
- 公園の草刈り行事に合わせて避難訓練をされたところがあり、会員にも声掛けいただいたが、草刈ができないからと参加を遠慮した事があった。草刈りができなくても参加してほしいなど、呼びかけを工夫をすれば参加しやすくなる。
- 都市部においては、隣近所の人と話したこともないため、いざという時には助けをお願いできないと聞く。普段から地域の人とのコミュニケーションは大切だと会員には話をしている。
- ユニバーサルトイレに大人用介護ベッドが必要と言ってきているが、一向に改善されない。
- 優しい地域になれば避難もしやすくなると考える。



【第3部 パネルディスカッション】誰一人取り残さない防災の実現をめざして ～要支援者の避難～

(前川副市長)

- 避難訓練の様子を動画で撮影し、個別避難計画を作成する際に見ていただくことにより、運用についてイメージを持ちやすくなる。
- 地域の中でコミュニケーションが薄れてきている中で、防災への取り組みがきっかけとなり、話題がつながるようになれば、地域社会を再構築するための有効な手段となるのではないか。
- 避難訓練を行う際に、要配慮者への避難訓練だけではなく、一般の避難訓練の中に要配慮者の訓練も盛り込み、お互いを知ることで避難所での留意点を知ることができる。
- 個別避難計画を運用していくにあたり、全員を一度に移送させることはできないため、様々な想定を訓練に取り入れるなど、今後の運用方法を考えていきたい。



(矢守教授)

- 個別避難計画の作成から訓練までを動画に収め、新たに計画を作成する人に見ていただくことでイメージしやすくなる取り組みを他市町で行っている。
- 避難所での「お困りごと」が何なのかは、避難訓練に参加してみないとわからない。ぜひいろんな人に参加いただき、「お困りごと」を見つけてください。見つけていただく事で良い訓練になる。
- 避難訓練の全てに参加できなくても、その人の特徴に合わせて部分的に参加いただくことにより、支援が必要な人がいるという事を他の人に知っていただく機会となる。
- 「誰一人取り残さない」というフレーズはよく使われているが、誰一人気づかなかったのかという問題が実際によくあるからこそ、使われる言葉であり、誰一人気づかないままという悲しい事態を防ぐ意味でも、まず最初のひとりに取り組むというのが大切。

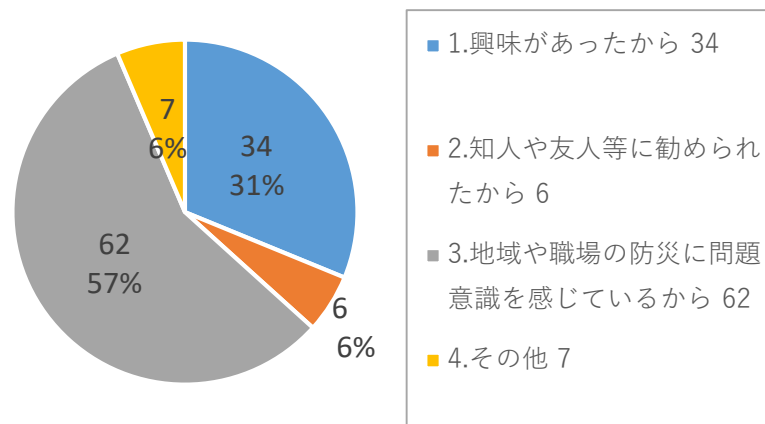


参加者アンケート集計結果（一部抜粋）

回収数：87件

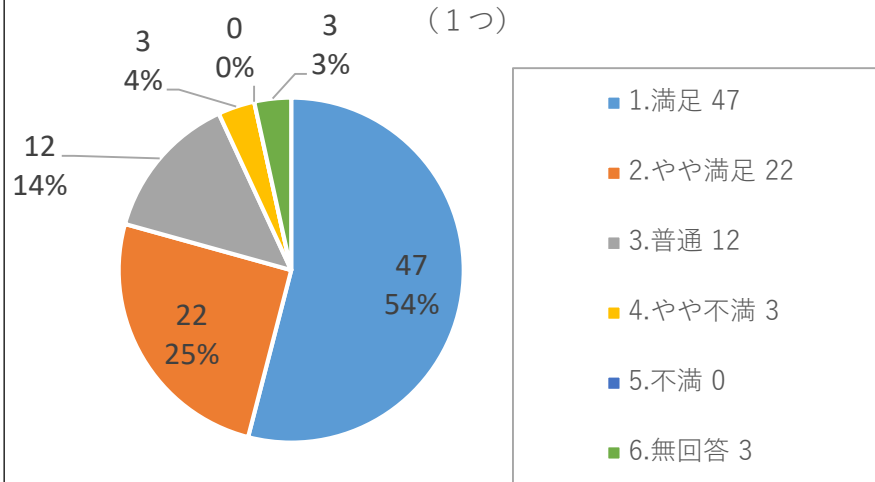
問4）シンポジウムに参加された理由を教えてください。

（複数回答可）

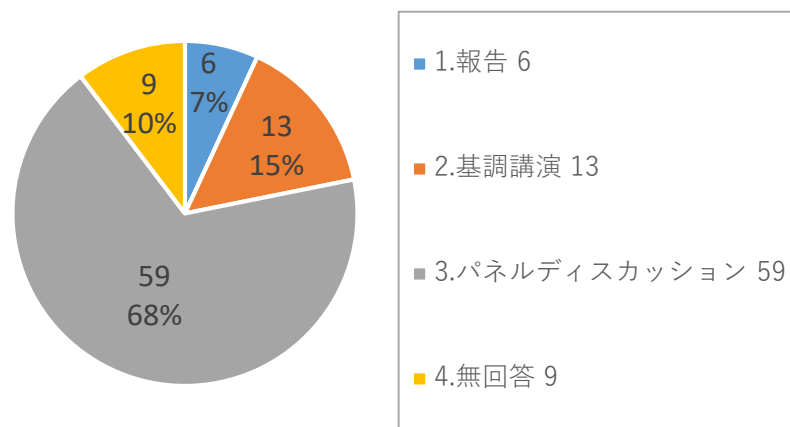


問5）シンポジウムに対する満足度を教えてください。

（1つ）



問8）特に興味あった項目はどれでしたか？（1つ）



問9）次回もシンポジウムに参加したいと思いますか。

（1つ）

